

2017年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	大学生の数的能力・金融リテラシーを育成する
研究所名	数的能力・金融リテラシー育成研究所(所長 生活文化学科 高橋桂子 教授)
設置開始	2017.4.1
設置終了	2020.3.31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

実施状況は下記のようなものである。

(1)【SPI 講座（毎年）】

9月集中講座

日野キャンパス（9/13）と渋谷キャンパス（9/14）で、「食塩水・分割払い・損益算」を中心とする SPI 講座（両日：9：00-12：00）を開催した。出席学生数は日野が9人、渋谷が17人であった。

1時限目は高橋による3領域の解説、2時限目は練習問題を解くというスタイルで展開した。それぞれのキャンパスにメンバー教員が参加（日野：蟹江、中野。渋谷：角本、阿部）して机間指導を行った。渋谷では日野での講座に出席した中から学生3人をTAとして雇用し、きめ細かい対応を行った。

アンケートでは、日野キャンパスからは「はじめに考え方を理解してから例題を解くことで、なぜこの式を使うのか、この数字を使うのかを理解しながら解くことができた。後半の練習問題ではブラックボックスの問題で間違ってしまったため文章問題にも対応できるようになりたいと思った」。一方、渋谷キャンパスからは「SPI 非言語に対して、とても苦手意識があったが、やり方を基礎からやってくれて理解できた。先生も基礎から教えてくださりレベルも合っていてよかった」。「数的分野が苦手というより全く出来ないのが今回参加しました。アットホームな雰囲気でも個別に指導してくれる点が今まで受けてきた講座とは違って、自分のペースで取り組むことが出来ました」などであった。

2月集中講座

日野キャンパス（2/7, 2/8）と渋谷キャンパス（2/15, 2/20-21）で SPI 連続5講座を実施した。日野キャンパスでは、例年通り、高橋の SPI 講座（食塩水、損益算、仕事算など）に加えて、蟹江先生による空間把握を展開した。渋谷キャンパスでは角本先生による公務員対策講座を展開した。公務員対策講座は、前半は身近な素材をつかった数学的センスの復讐、後半は順列・組み合わせ、N進法、空間把握や回路など幅広くとりあげ学習を行った。勉強というスタイルで SPI に向かい合うばかりでなく、数字を扱うことそのものに苦手意識をもたなくさせることも、SPI 得点アップのためのひとつの手段と感じた講義であった。

(2)【図表、空間認識力(新規)】

蟹江先生の担当。空間把握講座は、実際に方眼紙、色紙などを使ってサイコロ、正六面体などを作成。その作業を通して、サイコロ展開図を理解したり、立体の特性把握などが行われていた。3時間、学生たちが実際に紙とハサミで悪戦苦闘しながら立体をつくりあげていたが、3時間終了後の活き活きとした表情が印象的な講義であった。

(3) 【金融リテラシー(新規)】

中野先生が、高橋の講義の1コマをつかって「生命保険」に関する講義を行った(2017.12.2)。高橋の講義の中で社会保険(年金保険、健康保険、雇用保険、介護保険)に関しては基本的知識は学んでいるが、生命保険は対象外である。VISAのテキスト改善という目的もあり、今年度、初めて実施した。

■現在までの達成度

予定通りに進んでいる。

■次年度以降の研究(見込み)

2017年度を踏襲する。ただし、2015年、2016年に比べてSPI受講者数が大幅に減少している。そこで2018年は

○開講時期:講義期間中に可能な限り、実施する。

○SPI:新たに「つるかめ算」を取り入れる

○立体図形:サイコロ、立方体に加え、「ペーパークラフト講義(例えば立体カード)」を取り入れる。

○VISA改善:経済の時事問題としての「仮想通貨」、失業保険や損害保険をとりあげる。(阿部先生担当)

■研究活動における成果

(1) 研究成果(雑誌、学会発表、図書等)

なし

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

上記、3つの柱ともにすべて、学生への還元であった。